

きゅうりこれからの管理

【露地・雨除け胡瓜について】

晴天続きによる圃場内の乾燥は、不良果の発生原因になりますので、通路が十分湿っている状況を維持するように灌水を行いましょう。

整枝作業につきましては、混み合う所の葉を中心に摘葉を行ない側枝の摘芯につきましては、とりわけ伸びすぎている枝を摘芯して行きましょう。また、垂れている側枝については引き上げるようにして下さい。

ハウス内の高温状態が続くと、いくら灌水量が十分であっても果形の乱れに繋がっていきます。できる限り換気部分を設け、ハウス内の温度を下げるようにして下さい。

追肥につきましては、液肥だけでは肥料分が不足する場合がありますので、通路肥または置き肥を行ないましょう。また、草勢維持のために葉面散布を定期的に行いましょう。

曇雨天が続く場合は、葉が軟くなり葉色も薄くなってきます。葉を固める場合は銅剤の散布。葉色を乗せる場合は尿素500倍散布を行って下さい。

【抑制胡瓜について】

陽熱消毒を行なっている圃場につきましてはマルチの除去を最低定植10日前には行って下さい。定植前に植穴灌水を行ないますが、定植前日1回だけの灌水では不十分な場合が考えられます。2～3回に分けて灌水を行なっておくと良いでしょう。特に、ポリ被覆の方につきましてはハウス内は乾燥している可能性が高いので気を付けて下さい。

定植後は高温乾燥による苗の萎れや活着不良が多く見られます。活着するまでは鉢土が乾かないように注意しましょう。日中萎れが激しい場合は葉水を行い、それでも萎れる場合は通路散水を行い、湿度を確保する。また、蒸散抑制剤の使用も検討する。

活着後親枝摘芯までは軟弱徒長させないように温度・水管理には注意しましょう。

銅剤で葉を締めておくことも重要です。

側枝の整枝作業については、下段は1節、中段は1～2節、上段は1節止めとし特に上段は摘み遅れると過繁茂になりがちになりますので、注意して下さい。

【促成胡瓜について】

促成胡瓜につきましては播種時期となってきました。圃場準備の遅れによる定植遅れがない様、計画的に作業を行って下さい。

【病害虫防除について】

ハウス内及びハウス周辺の除草対策は定植までにしっかりと行っておきましょう。

特に、黄化えそ病を初めとするウイルス病の発生株は早期発見・早期抜根に心がけて下さい。

判別が困難な場合はご連絡下さい。

防虫ネット、粘着板の設置も行ないましょう。

御協力下さい

今年も昨年同様、7月～9月までの期間、毎月15日を目安に圃場周辺の定期除草を実施して頂きますよう、御協力の程よろしくお願い致します。

果樹園の管理(9月)

生産者の皆さん毎日の作業お疲れ様です。9月の管理については以下の通りです。また、台風シーズンとなっていますので事前に対策等を十分に行ってください。

中晩柑

1. 仕上げ摘果

再度、小玉主体にて摘果し、L級以上生産に努めましょう。

新梢数が多い樹は、果実の日当たりと防除効率を考慮し、枝抜きを行いましょう。

2. かん水

土壌が極端に乾燥してしまうと、果実肥大及び減酸に多大な悪影響を及ぼします。乾燥が続く場合は10日おきを目安に、10a当り20~30tのかん水を行いましょう。かん水設備が無い園地では土壌水分がある内に敷草等を行い、乾燥防止に努めましょう。

3. 病虫害防除

8月中旬~9月上旬は、ミカンハダニ、ミカンサビダニ、スリップス、黒点病の重点防除となります。果実にサビダニの発生が見られた場合、その後乾燥が続くと、かなりの被害が想定されます。発生前の予防に重点をおき、散布ムラのないように丁寧に散布して下さい。かいよう病にかかりやすい品種(スイートスプリング等)は、台風襲来前後に必ず薬剤散布を実施して下さい。

落葉果樹

1. ブドウ

1) 成熟期の土壌水分

成熟期にはかん水を少し控えめに行い、土壌をやや乾燥気味に保ち、糖度の上昇や着色を促します。

過度の乾燥は果粒肥大不足、糖度不足となります。乾燥が続くようであれば、7~10日間隔で10a当り10~15t程度のかん水を実施して下さい。

2) 裂果対策

成熟期の果実の裂果は土壌水分の急激な変化や長雨などが主原因で発生します。過度の乾燥が無いよう、定期的なかん水によって土壌水分を適湿に保ちましょう。

2. マンゴー

1) 温度管理

マンゴーの光合成は昼は25~32℃が盛んで、40℃以上で低下します。天井を被覆されているハウスでは、葉やけの恐れがある場合は、日よけを行ってください。

(通気が悪くならないように注意)

※農薬の使用については、使用基準(摘要作物、使用回数、使用回数、収穫前使用日数等)を守って使用してください。

連絡先……果樹農産課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

まだまだ残暑厳しい中、秋冬物の作付・準備等で大変な事と思います。

さて、秋冬播きの作物はリレー作付・出荷に取り組むものが多く、播種日等が決められているものがあるので、播種日を守り、適期収穫を行うようにして下さい。また、高温・乾燥が続き、ヨトウムシ等の害虫が発生しています。フェロモントラップの設置や、圃場周辺の雑草除去等を徹底して下さい。

<栽培管理について>

・白ネギ・

第1回目の土寄せ・追肥を行った以後、15～20日毎に土寄せを行い、軟白部分を多くして下さい。追肥は、元肥やネギの状態を考慮して行います。有機肥料の肥効期間は30～50日間です。**気温が下がると軟白しにくくなります**ので気温の高い時期になるべく土寄せを行い、高品質のネギを生産して下さい。また、雨後はネギが弱り、病気が入りやすくなります。天気が回復後、作物活性剤の葉面散布等を行って下さい。

・人 参・

発芽時のヨトウムシによる食害が増えています。農薬の使用はできませんので、予防策を徹底して下さい。7月～8月中旬播種は間引き・除草を徹底して下さい。品質の良い人参を生産するためには重要な作業ですので、怠らないように必ず行うようにして下さい。**最終間引きは8～10cm**です。

・里 芋・

白芽は収穫が遅れると子芋の種芋化が起こり、水晶芋（煮えない芋）や品質低下（割れなど）となります。適期収穫を行うようにして下さい。石川早生を作付されている場合、水晶芋の発生が多くなりクレームの原因となりますので、子芋（出荷A品のもの）の試食を行い、各自で水晶芋の発生を確認して下さい。

赤芽は11月下旬からの収穫になります。

・病虫害対策・

高温・乾燥が続くとアブラムシ、スリップス、ダニ、ヨトウムシ等が発生します。予防策を徹底して下さい。

アブラムシ ⇒ シルバーテープの設置（キラキラ光る事で寄せ付けない）
作物に近いところに設置して下さい。

ヨトウムシ ⇒ フェロモントラップの設置（雄の成虫を捕獲することにより繁殖を防ぐ）
ダニ・スリップス⇒ 葉に付きますが、樹勢が良ければ生育を阻害されることはありません。
かん水を行う事により発生がおさえられます。

コナガ類 ⇒ 粘着シートを使用し、誘引捕殺して下さい。
作物に近い位置に設置すると効果的です。

※事前対策等もありますので、周辺に雑草が多い圃場や前年に害虫の発生が多い圃場などは、肥料散布前に連絡をお願い致します。

【農産物を出荷される生産者のみなさまへ】

産直及び直売所へ出荷される方は、必ず出荷前に栽培管理記録簿の提出をお願いします。用紙は果樹農産課にて準備していますので、用紙のない方は、事務所まで取りに来てください。

有機農業実践振興会の推進員または支部長の確認印が必要となりますので、早めの記帳をお願いします。

《連絡先》果樹農産課 77-2216 (岩満)

《大豆栽培生産者のみなさまへ》

大豆も開花期を迎える時期となりました。中耕・培土、除草や防除などは順調に行われたでしょうか。適期の培土は収穫量に大きく影響します。

高温・乾燥が続くとヨトウムシやカメムシの発生が多くなりますので、適期の防除をお願い致します。

殺虫剤（ヨトウムシ）

薬剤名	品目特性	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
マッチ乳剤	脱皮阻害剤 低薬量で優れた効果と残効性があるが、浸透移行性がない	3000倍	14日	2回以内
ランネート45DF	ヨトウムシなどの老齢幼虫にも効果がある 残効性は短い カメムシ類にも登録あり	1000～2000倍	14日	4回以内
エルサン乳剤	広範囲の害虫に有効 カメムシ類にも登録あり	1000倍	7日	2回以内
パーマチオン水和剤	接触毒・食毒作用 速効性 優れた残効性 カメムシ類にも登録あり	1000～2000倍	21日	3回以内 (種類制限あり)
カメムシ登録 スタークル液剤10	カメムシに対する殺虫効果・吸汁阻害効果がある。	1000倍	7日	2回以内

※カメムシのみ防除する場合は、開花後20日目(さやが膨らみ始めた頃)とさらに10日後の2回散布すると効果的です。

農薬は、ラベルや説明書をよく読んでから使用してください。